

### 第3回改革推進会議議事要旨

日 時 平成19年7月13日(金)  
18:00～19:50  
場 所 いわみーる 401研修室

#### 開 会

委員長

それでは、ただいまより、第3回改革推進会議を開催させていただきます。

本日は、改革推進会議といたしまして、この浜田で公聴会を開催しましたところ、天候が余りよくない、それでまた夕方ということですが、大変多くの方々に御参加いただきましてありがとうございます。心よりお礼を申し上げたいと思います。

御承知のように、鳥根県の財政状況は大変厳しく、さらなる健全化に向けた対応が必要であるということで、6月12日の第1回改革推進会議において溝口知事から県財政の健全化について提言をするようにと求められたところでございます。

私を含めまして両側におります12名の委員といたしましては、県財政の状況などについての説明を鳥根県の方からお伺いをいたしました上で、各界の方、そしてこういった公聴会で県民の皆様方の御意見をお伺いした上で提言をまとめていきたいと考えているところでございます。

本日の会議は、冒頭に県の方から財政の状況を簡単に説明していただきました上で、あらかじめ出席をお願いしております、こちらにおられますが、お二方から御意見をいただいて、委員と意見交換をします。その後、会場の皆様方からも御意見を伺うと、こういった形で進めてまいりたいというふうに考えてございます。

本日は、溝口知事も同席されております。せっかくの機会でございますので、皆様方から県財政についての忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げまして、冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。(拍手)

それでは、先ほど申し上げましたように、今日は知事さんが、皆様方の御意見をお伺いする大変貴重な機会ということで同席されております。冒頭、少しごあいさつをいただきたいと思います。

知事

溝口でございます。本日は、雨の中、お出かけにくいところを多数の皆様においでいた

だきまして、まずもって御礼を申し上げます。

私は、さきの選挙によりまして知事に就任をいたしました。就任は4月の30日でございますが、2カ月少したつところでございますが、知事になる前から県内をいろいろ回り、皆さんの御意見もお聞きし、各地の事情も見ながら、知事として何をすべきかということいろいろ考えたわけでございますが、やはりこの地で産業を興し、雇用を拡大することが大事な課題であると思っております。さらに、当面の大きな課題としては、悪化した財政を健全化することでございます。この島根県の財政、ここ10年近くでございますけれども、悪化をしております、それに対しまして澄田前知事のもとでも大変厳しい財政健全化のための措置がとられてきておるわけでございますが、なかなか赤字が解消しない状況でございます、中期的な展望を立てまして、その中で財政を健全化させていく、これが大事な課題だと考えているところでございます。

そのためには、やはり県民の方々に財政の状況につきましてよく御理解を賜ると同時に、県民の方々の御意見をよく聞いた上で健全化の方策を考えなければならないということで、この改革推進会議というものを5月の中旬に設置をいたしまして、本日、ほとんどの委員の方が御出席でございますけれども、既に2回の会合を開いたところであります。本日は3回目でございます、各地に出かけまして各地の皆さんの御意見もお聞きしようということでございます。この後、来週でございますか、また出雲において同様な会合を開く予定でございます。そのほかホームページでありますとか、いろんな形で県民の方々の御意見を聞くということにしておるわけでございます。

財政は私も大蔵省とか財務省にいまして経験があるわけでございますけれども、非常に大きな数字で、日常生活とは迂遠な世界であるというところがありまして、なかなか理解をしにくいわけでございますが、なるべく本日は冒頭に私どもの方からも財政の状況をわかりやすく説明させていただき、さらに本日おいでいただいております土田さん、今井さんの方から御意見をちょうだいし、さらに皆さんからも御意見をいただいて議論をさせていただければと思っているわけでございます。

何とぞよろしく御意見申し上げます、簡単でございますけれども、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

## 島根県財政の現況について

委員長

それでは、まず事務局の方から島根県財政の現況について説明をしていただきたいと思います。

〔事務局説明〕

## 意見発表（土田好明氏）

委員長

島根県、そんなことになっているのかと、今さらながらにお感じいただいたかもしれませんが、今日のメインの意見交換会、早速意見発表者の方々の意見交換に入りたいと思います。

初めに、土田産業株式会社代表取締役社長の土田好明様にお越しをいただいております。土田様、どうぞよろしくお願いいいたします。

土田氏

ただいま紹介ありました土田でございます。この場で意見を述べさせていただく機会を与えていただいたことにつきまして、大変感謝申し上げます。

何で選ばれたのかということいろいろ考えましたら、我が社が関係しております石油販売業界、先ほど説明がございました県税、今、約700億ありますけれども、そのうちの10%近いものを軽油引取税、ディーゼル車で動いております軽油車の軽油、これをたいていただきますと軽油税ということで県の方へ納めさせていただいております。それが県税のうちの約10%あるということで、私が選ばれたんじゃないかなというふうに思っております。そういうことで、これから私の本当につたない感想を述べさせていただきます。大変失礼でございますが、座って説明をさせていただきます。よろしくお願います。

まず、私の自己紹介を申し上げますと、私は俗に言われております団塊の世代生まれでございます。先日、当地で試写会が行われ、夏休みには全国ロードショーされます「天然コケッコ」の原作者、くらもちふさこさんと同じ、隣町の三隅で生まれ育ちました。小学校、中学校を三隅で育ち、高校は当地にございます浜田高校に通い、それから大学、それから社会人ということで約10年間、東京で生活しまして、昭和51年に当地へ帰って現在に至っております。

現在も月1回程度上京しておりますけれども、後ほどいろいろ説明があろうかと思っておりますけれども、大変道路整備が悪い、あるいは利用者が少ないということで、本来は石見空港を使って上京しなけりゃいけないんですけれども、東京へ行くのは広島空港ということで、県の皆様に大変申しわけないと同時に、利用促進の会長をやっておられます益田商工会議所の島田会頭の奥さんが委員でございますので大変申しわけないということで、この場をかりて謝らせていただきたいと思います。

海のそばで育ち、自然の美しいまちであるので、我々の世代のメンバーの子供たち、一人でも多く当地へ帰ってきてほしいということで希望しておるわけでございますけれども、当地へ帰りましても自分の職種に合う働き場所、そういう帰って勤めたいんだけど働き場所がないということで、なかなか我々の次の世代、子供たちがUターンする率が減っているという悲しい事情がございます。ぜひとも溝口知事におかれましては、工場誘致を含めて地域の活性化をしていただきまして、大いに子供たちに帰って来られるまちづくりにしていただきたいなというふうに思います。

一般に言われております、景気が回復しているということでテレビ、新聞等々で報道されておりますが、我々、この浜田圏域におきまして、実感として感じられません。企業間格差あるいは地域間格差が大変激しい、そういう地域間格差が一層生じておるといようなことで、景気回復が当地においては見られないんじゃないかなというふうに思っております。我々、この地でおきますと、ピンポイントの地域でしか景気が回復してないのではないかというふうに思います。

たまたま昨日、東京で新潟の友人と一杯飲んでおりまして、大変おもしろいことを言いました。「新潟で、ある大手の銀行の支店長さんが、今の現在の景気について大変おもしろいことをおっしゃいましたということで記憶に残っておりますが、現在の景気は、ゴルフをされる方はわかると思いますが、ホールインワン景気だと。何でかと、その心は、パットしないと。パットしない景気だからホールインワン景気だというような表現をしている。」大変笑うに笑えないような状況じゃなからうかというふうに思いますが、そういうような状況でございます。

一方、今日は女性の方も結構おられますけれども、全国的に問題になっております産科の医師の不足。先般、鳥根県におきましても隠岐の島で問題になっておりましたけれども、当浜田圏域におきましても、開業医の先生は婦人科はやるけれども産科はもう体力的にできないということで、旧浜田国立病院しか産科ができないというようなことに、この7月

からなってしまうております。そういう面で、特に若い夫婦、特に女性のこれからお産を控えている若い子供たちが浜田圏域に帰ってもいろいろ心配だなというようなことで、こちらへUターンというのが少ない一つの理由かなというふうに思います。

いろいろ財政が厳しいということを先ほど来説明がございましたけれども、やはり何を落とし、何をこれから力を入れていかなければいけないかという優先順位を決めていただきまして、削るところは削るんだけど、お金を出すところは出すというようなことで、ぜひともやっていただきたいと思います。

東部地区におきましては島根大学の病院あるいは県立中央病院、また松江地域には大手の病院がございます。中央から若いお医者さんを引っ張ってきまして、やはり同世代の年代がいませんと、お互い切磋琢磨して勉強会、研究会できません。浜田へ産科の医者に来ていただきたいということで来ましても、ひとりぼっちになってしまうと、必然的にまた自分の所属する大学病院なり都会地の病院に帰ってしまうというようなことがございますので、松江で見られる状況と若干こちらの方は違いますので、ぜひとも浜田圏域におきましてもそういう産科の先生の対応につきましても優先順位の上位の方で対応していただきたいということを切にお願い申し上げたいというふうに思います。

そういうことで、溝口知事が誕生されまして、活力ある、また安心して暮らせる島根というキャッチフレーズで取り組まれています、西部地域においてはほど遠い状況が現在の状況ではないかというふうに思っておるのは私一人じゃなくて、この会場におられる方もそうではないかと思っておりますので、ぜひとも県の財政が一日でも早く健全化し、なおかつ悪い中でも優先順位をつけていただきまして、溝口知事におかれましては、住みたくなる、活力ある地域にしていきたいなというふうに思います。

県が主導されましていろいろ工場団地、益田の臨空パークを初めとしまして、矯正施設もできますけれども、旭あるいは江津、大田と工場団地をたくさんつくられまして、中央から工場誘致、いろいろ働きかけておられますけれども、なかなか工場が進出してこないということは、やはり先ほど来の若い者がUターンしてこないという、働く人が少ないことと、道路整備が、まだまだ不足しております。幹線道路の不足が大きい影響じゃなからうかなというふうに思っております。当浜田地域におきましては、先般来いろいろ話題を提供しておりますけれども、ロシアのウラジオストクへの車の輸出、年間1万台を超えるよというような感じで大いに活性化しておりますけれども、入ってくる船が、空船で入港して出るだけということがございます。船が海外から荷物を輸入する場合は、ほとんどコ

ンテナに物を詰めて入ってきます。ところが県の西部の幹線道路は国道9号線しかございません。9号線、皆さん走られておわかりかと思えますけれども、東へ行くには江津の、まず長いトンネル、それから仁摩へ抜けるトンネルございますけれども、浜田港に揚げたコンテナは、大変残念なことにこの9号線を走れません。上につかえて走れないということで、浜田港から出雲部に輸入したコンテナを運ぼうと思えますと、浜田道を通って中国道を通って三次からおりていくと、そういうような状況でないとできないということがございますので、ぜひとも幹線道路、9号線の整備と同時に早く高規格道路ということで取り組んでいただきたいということで、優先順位的にこれも先ほどの順位と同じような形でやっていただきたいと思えます。農道、林道、それぞれ同じ公共事業かと思えますけれども、やはり若い者が将来的に住めるような幹線道路の整備というのが最優先じゃないかなというふうに思っておりますので、よろしく願いしたいというふうに思えます。

また、平成14年のあるデータを見ますと、鳥根県の発注される工事の落札率が何と鹿児島県、新潟県に次いで全国第3位と、これはワースト3位ということで、落札率98%を超えているよという状況が14年のデータで出ております。多分現在も変わってないかと思えますけれども、こういうのを厳しく査定することによって、少しでも経費が削減できるんじゃないかというふうに思っております。

前段はこれだけで、これから財政の改革ということで私の意見を述べさせていただきますと思えます。

経済というか、商売の原則は、“入るを図り出ざるを制す”ということが鉄則でございます。収入を増やし支出をできるだけ下げていくというのが経済、商売の鉄則でございます。この中で、入る方につきましては、先ほど説明がございましたように国の交付税が中心でございます、これは今すぐ増えていくということはほとんど見込みがないという先ほど来の説明がございましたので、いかにして支出、出る方を抑えるかということが必要かと思えます。

県を鳥根県株式会社ということで考えまして、問題点を私なりに述べさせていただきますと、先ほど説明がございました一般職5,000人から4千数百人になったということでございますが、ただ単に数字だけの説明がございましたけれども、現在の仕事量等々からいって、組織、人員配置、果たして見直されての人員削減だったのであるかどうかと思えます。戦後間もなく、それぞれの地区に総務事務所等をつくられ、それぞれの人員を配置され現在まで来ているんじゃないかなというふうに私の目からは見えます。

社会・経済活動をやっておりますいろんな企業においては、皆さんの方も昔はあの銀行があったのになというような名前が、今は統廃合してわからないような銀行の名前になっているというふうに皆さんも感じられると思います。あの大手の銀行はどうなったのかと、あるいは川崎製鉄がどうなったのかというように、大手の製鉄会社でもそれぞれ統合して体力をつけ、経費を削減して現在の時代の流れに対応しながら進めておられます。そういう面で、島根県におかれましては、先ほど来1,000人を削減するというようなことでの説明はございましたけれども、私の考え、目で見ますと、もう少し突っ込んでいただいて、5,000人を30から35%ぐらい削減しても、一般企業の皆さん方の苦勞から見ればまだまだ少ないんじゃないかなと思います。

変な例えを申し上げますと、退社、退庁時です。一般の会社が5時半だとします。県が5時20分だとします。その時間帯でぽっと退社、退庁される割合というのは、皆さんの目から見てどうでしょう。普通ですと、仕事をやって、それから片づけて帰られると思いますけれども、県、余り大きい声で言うてはいけませんけれども、その時間帯に出られる人の数は素人目で見ても相当な人数おられるんじゃないかと思います。ということは、終業前二、三十分は整理の時間が必要です。余裕の時間が十分あるのではないのでしょうか。まだまだ一般の企業に比べてそういう面の見直すいろんな面が必要じゃないかなというふうに思います。

また、溝口知事が就任されまして、若い職員の方との意見交換をやられておるということで、記事で拝見しております。最近の若い方というのは非常にいい知恵を持っております。私も会社勤めを経験したことがあります。その友人たちと出会うと、私はもう55になったから職定年になった。ただあと5年間ぶらぶらして勤めていく。あとは若い者に任せているんだと言っていました。できるかどうかわかりませんが、県の方におかれましても、ある年代からは若手に切りかえていくと同時に、支援制度を活用していただきまして、早期退職ということで、ぜひとも今社会問題で言われております2007年問題、団塊の世代が60歳の定年を迎えるということで、これから5年間ありますけれども、いち早く対応していただいて、先ほど申し上げましたように、5,000人だった人数を30から35%削減されましても、県民へのサービス低下にはつながらないんじゃないかなというふうに私は見ておりますので、溝口知事の思い切った施策を望みたいというふうに思います。

それから、聖域と言われておるということで、先ほど説明ございました学校の先生方の

人数が果たしていいのだろうかということも私の疑問の中でございます。学校の数があれば、それだけ先生と同時に県の職員の方もそれに張りついていかなければいけないんじゃないかということで、学校の統廃合を数年前から県の方でも考えて取り組んでおられますけれども、これも聖域なき見直しということで、もう少し突っ込んで取り組んでいただければいいんじゃないかと思います。いろいろ学校の統廃合につきましては、きょうも県議の先生方もたくさんおられますけれども、それぞれ票をいただく住民の方とのあつれきが問題になるかと思えますけれども、やはり戦後、産めよ増やせよの時代で大勢の子供たちができた時代の学校の配置と、今、少子化がどんどん進んできて定員割れになっている学校も結構高等学校でもございます。そういうような状況で、ぜひとも見直ししていただければと思います。

先ほど私、団塊世代で生まれたと申し上げましたが、昭和43年に私、浜田高校に入りました。その年はまさしく浜田商業高校ができた年です。ということは、55人のクラスでは賄い切れないんで商業科と家庭科が分離されました。ところが今は40人学級でございます。と同時に商業高校の方も人間的な面、それから当地域においては水産関係がございまして浜田水産高校があります。浜田高校におきましても今市分校、それから浜田高は定時制がございまして。定時制につきましては東部が宍道、西部が浜田高を拠点校ということで統廃合を取り進めておられますけれども、ぜひとも私の考えでは、西部の拠点校として浜高定時制の充実をお願いします。又今市分校なり、あるいは思い切って水産高校の一部を持ってくるというような大胆な考え方で取り組んでいただければなと思います。ぜひともその点につきまして知事の方も思い切った形で取り組んでいただきたいなというふうに思います。

支出のことばかり申し上げまして、入る＝収入について申し上げたいと思いますが、先般、溝口知事の人脈を初め関係各位の御努力によりまして石見銀山が世界遺産に登録されましたことは、大変喜ばしいということでお祝い申し上げます。今後、これを契機としまして、島根には出雲大社、あるいは宍道湖、松江城、それから西の方では津和野というような、いろいろ日本全国で有名な名所がございまして。ぜひとも観光立県ということで、いま一度県外からの入り込み客をふやすということの努力をしていただいて、外資というか、県外からのお金を県内に落とすという努力をやっていただければなというふうに思っております。

しかし、ちょっと気になる点がございまして、先月、ANAの飛行機に乗りましたら、

機内誌に水族館紀行ということでアクアスが4ページにわたって大変すばらしい機内誌が出ておりました。ところが、説明書きで島根県出雲という名前で、浜田とか江津とか波子とかいうのは一切書いてありません。機内に乗られた方がアクアスは立派だなと、どこへ行くのかなと思ったら出雲しか書いてないということは、出雲にアクアスがあるんだなというふうな形でしか見られないかと心配します。

それと同じことが今月、7月の新幹線のグリーン車に入っております車内誌「ひととき」でございます。これも大変すばらしい新幹線の車内誌でございますが、その中に津和野の鷺舞が載っておりました。これにつきましても、津和野というのはわかるんですけども、一番近い駅、新幹線に乗っておりますので新山口でおりに行っていただきたいぐらいの説明書きがあればいいんですけどもありません。津和野の鷺舞、1500年に山口の大内家が京都の八坂神社から引っ張ってきて、津和野の八坂神社に鷺舞を奉納したということの説明がありますけれども、多分新幹線に乗られた方は、どこから行ったらいいかということがわからないんじゃないかと思えます。大変すばらしい、そういうような情報誌でございますので、県庁内で、どの部署、どの局が担当されているかよくわかりませんが、財務省におられますと広告会社の電通、博報堂さんとのつながりも結構深いというふうに聞いておりますので、そういう広告会社、また各情報雑誌を出している会社とのコンタクトを十分とっていただきまして、県のPRを、県内じゃなくて県外に大いに発信していただきたいということをお願い申し上げます。

大変時間が超過いたしましたので、まだまだ述べたいことはございますけれども、このあたりで終わりということにさせていただきます。どうもありがとうございました。(拍手)

委員長

ありがとうございました。

冒頭、何点か本当に安心して暮らせるまちなのかということで、雇用促進の取り組み、それから地域医療の不安、それから公共インフラの未整備部分が多いと、こういったことを御指摘いただいたと思います。

#### 意見発表(今井千温氏)

委員長

それでは、もうお一方お越しいただいておまして、浜田の転入者を応援する会代表で、いわみマインド事務局長の今井千温様にお越しをいただいております。

今井様に御意見を伺った後、意見交換ということにさせていただきたいと思います。

今井様、よろしくお願いいいたします。

今井氏

失礼します。ただいま御紹介にあずかりました今井千温と申します。

今、御紹介いただきましたとおり、石見地域を元気にしたいというような思いから、同じような思いを持ったメンバーと浜田の転入者を応援する会、あと、いわみマインドというような会の活動をしております。

今日、私が話させていただく話なのですが、改革推進会議というこの場には非常に何か不似合いだなと正直思っておりまして、1回目、2回目の新聞記事とか議事録というのを拝見したんですけど、今の土田社長のお話もそうなのですが、こんなかたい話は私できませんと思って、どうしようかな、父に頼んだ方がいいんじゃないですかというふうに総務部の山根次長に実はお話をしたんですけど、社会的に地位があって年配の男性の方の話というのは結構聞く機会があるんだと。私のように女性で、私、東京から戻ってきたんですけど、外から来た人で、そんなに年もいってない人の声を聞く機会というのはあんまりないんで、何でもいいんで好き勝手しゃべってくださいというふうに言っていたいたんで、今日はそうさせていただこうかなと思っております。なので、ちょっと浮くかなと思っておりますけど、すみません。

私の自己紹介というか、生い立ちなんですけど、私、岡山県の笠岡市というところの出身です。1971年生まれ、ことし3回目の年女なんですけど、御存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、人口6万人ぐらいの岡山県の西の端、広島県との県境にあります瀬戸内海に面した小さな田舎町です。

私は、ずうっとすごい都会に行きたくて、中学に上がる時も高校に上がる時も都会の寮のある学校に行かせてくれと親に言ったんですけど却下されて、プロフィールにも書いたんですけど、大学は広島の大学に行きまして、島根の方もそうかもしれませんが、岡山県民から見て広島は大都会なので、やっと都会に行けたと思っていたんですけどそんなもなく、そんなに都会じゃないなあと、ちょっと違ったなあと思いながら生活をしていたんですけど、大学4年のときに就職したところは、なぜか岡山本社のベネッセコーポレーションという会社で、何か好きこのんで、また岡山に帰ってきてしまって、ただ、転勤で東京に行くことになりまして、やっと悲願の東京生活を手に入れまして、今、土田社長と偶然一緒だなと思ったんですけど、10年ほど東京で暮らしていました。

その間に今の夫と結婚して、優雅なDINKSの消費生活を楽しんでいただけなんですが、2004年の秋に子供が生まれまして、子供が生まれたこともあって、こちらに戻ってきたような形です。なので、今日は奇しくも、あ、そうか、土田社長はUターンですね、私はIターンという形になるんですが、外から来た2人がしゃべっているという感じだなあというふうに思っております。

戻ってきたのが2005年の春、2年少し前なんですけれども、戻ってきて最初に思っていたのは、何を好きこのんで自分の実家より田舎に帰ったのかなあと思っていて、一番ショックだったのが、私、浜田市の金城町というところに住んでいるんですが、浜田駅のそばのお店に来たばかりのころに御飯を食べに行ったところ、くみ取り便所だったんですよ。私は実は実家がそうで、それがすごい嫌で嫌で出ていったようなところがあるんですが、浜田駅のそばですよ、ちょっと衝撃を受けまして、これはちょっと失敗したかなと思ったりして、友人たちからも、あなたは島根県の生活、向いてないんじゃないって、セブン・イレブンないんだよみたいな感じで言われて、思っていたんですが、でも、そういうふうに言われると、かえってむきになるのが私の性格で、せっかく住んで、これからも多分長く住むであろう所なんだから、楽しいところを探したいなあというような、ちょっと気分の転換を図ったようなことです。

島根のいいところってどこですかというふうに言うと、多分大抵の方が第一声に近いところで自然が多いというふうに答えられると思うんですね。もうすぐ梅雨も明けるかなあと思っているんですが、例えば海に行くのも海水浴場もたくさんあるし、どこへ行くのも駐車場待ちもないし渋滞もないし、すごくいいところだと思うんですよ。たくさんあるんですが、じゃあどこの海水浴場に行こうかなと思うと、インターネットを例えば調べてみると、官民両方いろんなサイトがありますよね、海水浴場リストみたいな。一覧はあるんですけど、欲しい情報は一つも載ってないんですね、一覧の情報が載ってるだけだと。困ったなあと思って先輩ママさんに聞いてみましたところ、折居海水浴場というんですかね、西の方ですよ、あそこは波が穏やかで、子連れにはいいよみたいなこととか、あと、ちょっと忘れちゃったけど、何とかっていうところは最近変な人が出たから子連れには行かない方がいいよとか、そんなことを教えてもらって、その話を聞いたときに、私が欲しい情報というのは、海水浴場の名前とか住所とかでは全然なくて、今聞いたような、ある種選別された情報なんだなということと、あと、その情報に付加している部分、人が少ないとか、そっこの部分なんだなということとをすごく思ったんですね。こういう情報を共有するよう

なネットワークがあったらいいなあ、生活がしやすいかなあというふうに思ったのが、今お話しした浜田の転入者を応援する会という会をつくるきっかけです。

「はまてん」というふうに呼んでいるんですが、「はまてん」で、女性ばかりの会なんですけれども、情報共有と題していろいろお茶を飲んだりというようなことをしていたんですが、あるとき私の東京の友人が遊びに来てくれることになって、どこに連れていこうかなあと、どうせならやっぱり島根を好きになってもらいたいんで、どこに連れていこうかなあと考えて、「はまてん」の活動等々をする前には、お魚センターとかに連れて行ってたんですね。もし関係者の方がおられたら、ちょっとごめんなさいなんですけど、お魚センター、いいんですけど、ああいうのって東京近郊に幾らでもあるんですね。そんなに特に反応なしという感じだったんですよ。もっといいとこないかなと思って「はまてん」のメンバーに聞いてみましたところ、固有名詞をこの際だから出すんですけど、田町にあります海旬というお店、何かうなずいてらっしゃる方もいらっしゃるんですが、お店を紹介してもらって、あそこ、すごく安くて、女性ばかりで、いつもおしゃれだし、きれいだし、安いよというようにおっしゃっていただいて、そこへ友達連れていったら、本当に地元のお魚がどんどん出てきて、安くて、友達もすごく満足をしてくれて、島根県って魚が安いって言われてるけど、本当に安くておいしいんだなって、すごいうれしいことを言ってもらったんですね。

さっき本当に良質な情報というのは情報そのものではなくて付加された部分だったり選別された結果であるという話をしたんですけど、もう一つ、実感値が伴わないと意味がないんだなと、すごく感じたんです。そういった自分の考える本当に良質な地域の情報というのを発信をしていきたいなあということを、その会の方で考えるようになりまして、公益信託しまね女性ファンドの協賛を受けてつくったのが、この「浜田に引っ越してきたときに読む本」という本、フリーマガジンです。何回かテレビとかにも取り上げていただいたんで、聞かれた方がおありかもしれません。今、委員の方には皆さん、お渡しをしたんですが、もし聞いておられる方で興味ある方がいらしたら、言っていただければお渡しをします。

この中のコンテンツというか、内容を決めていくときに、こういう情報発信をするときに一番大事なことってターゲティングだと私は思っていて、ターゲットをはっきりさせないと、どんどん内容がぼけていってしまうので、外から浜田に来た人たちに有益な情報ということに絞ろうと思いました。それは私自身が同じ立場であるということもあるんで

すけれども、ずっと地元に住んでおられる方にはわからないというか、気づかない疑問と  
いうのを結構思いながら、外から来た人というのは過ごしているということはずっと思っ  
ていて、例えば3ページに海の幸って、魚の名称のことが書いてあるんですが、魚の名称  
って、結構地域によって違いますよね。とんころという魚ありますよね。スーパーによく  
置いてあるんですけど、私、とんころってずっと買ったことがなかったんですよ。私、子  
供がまだ小さいので、骨がたくさんある魚は嫌なんで買わずにいたら、キスなんですね、  
あれってね。キスだったら身離れがよくていいじゃんと思って買うようになったんですけ  
ど、例えば魚の名称一つにしても、わざわざ教えてくれる人はいないし、特にどこに出  
ているわけでもないし、そんな感じの情報を載せていきたいなあというような形で、メンバ  
ーといろいろ考えてつくったような雑誌です。

そんなこんなで内容は着々と決まったんですが、一番困ったのは、本当に読んでほしい  
人にどうやって届けるか、配布ツールとでもいうことで、これはちょっと後で行政への要  
望として述べさせていただこうと今日は思っているんですけど、こういうフリーマガ  
ジンとかフリーペーパーの配布のツールの王道というのは、人がたくさん集まる場所に  
ラックみたいなのを置いて配布する、リクルートとかがよくやっている、街角で配るみた  
いなこともありますけど、お金をかけずにやろうとしたら、そういう街角に置いてとって  
もらうのを待つというようなツールだと思うんですが、浜田地域にはそういう恒常的に人  
が集まる駅とか商店街とかってというのがないんですね。

なので配りようがないなあ、どうしようかなあというふうに思って、外から来た人が  
必ず行くところってどこだろう、市役所だろうと思って、市役所で配ってもらうこととい  
うのを、もう最初から前提に企画をつくりました。市役所で配るとするならば、恐らくさ  
きちょっと海旬さんの名前を言ったんですけど、特定のお店のPRをあんまりするような  
内容は、多分嫌がるだろうなあというふうに思ったし、できれば市役所で転入届と引きか  
えにごみ処理のカレンダーとかをくれるんですけど、その中に入れてもらえれば、1世帯  
に1部必ず渡るので、そんな感じで部数を決めていったりというような企画を考えていっ  
たんです。

浜田市の方といろいろ相談したんですが、結果、予想どおりなんですけど、多少ですが、  
特定のお店のことが載っているんで、ちょっと市が配るというのはできませんというふう  
に言われて、ただ、ロビーで置いておくのはオーケーですよというふうに言っていたい  
て、ロビーで設置をして配るということができるようになりました。

つくったのが1月で、この3月、4月、5月の転入者の方向けに配ったんですが、部数として、浜田市の転入者が大体年間2,600人ぐらいなので、1世帯3人として七、八百世帯なので1,000部つくって、さばけるかなあと思ってちょっと心配していたんですけど、マスコミ、テレビ、新聞でよく取り上げていただいたこともあって、すごいあっという間になくなって、まだありませんかというふうによく言っていたんですが、すぐなくなりました。

特にたくさん協力して下さったのがゆうひパークで、もともとゆうひパークで実は配布するというのは余り考えていなかったんですが、マスコミで取り上げられたこともあるんですけど、置いた場所が市役所とか県の定住財団の窓口とか、県の方もいるんですが、そういうところは置いてください言ったら、本当に置いてくだけなんですね。あれ、とりにくいですよ、何か行っても。何か手を出しにくいというか。なんです、ゆうひパークさんは、ちゃんといろんな情報が載ってますよみたいなことを書いて、ちゃんと乗ってくれて、すごくウエルカムな感じなんです。なのですごくとりやすい。だから、配布してくださいと言われて、はい、わかりましたって置いてくだけじゃ、だれもとっていかないんだと、やっぱり知恵は必要なんだというふうにすごくそこで感じたことがありました。

反応としては、本当にうれしい声をたくさんいただいて、市外の方ではあるんですけど、私が一番うれしかったのは、益田市にお住まいの女性の方から、自分もこういうのをずっとやりたかったんだけど、なかなか動きができなかったと。隣でこういうことをやってくれる人がいたら、私も励みになります、私もやりたいと思いますみたいな声をいただいて、元気は伝染するんだなと思って、とても強く思いました。多分陰気も伝染するので気をつけないといけないかなとは思いますが、自分にできることは、自分が元気を出すことだなというのを改めて思ったような感じです。

そういう活動をずっとしてきて、行政への要望ということで、すみません、本当にかたい話じゃないんですけど、1点あるとするならば、今回、市役所で配るというふうなツールをつくったんですけど、魅力のあるサービスを提供しようと頑張ってるお店だったり団体だったりというのは、かなりたくさんあるんですね。結構いろんなところで頑張ってるんですけど、何せ知られてないんですね。知る人ぞ知るみたいな形でされていて、例えば観光とかでも、実はもっと行ってほしいところとかあるんだけど知られていないということがあったりするんですが、要因の一つが、媒体がないということが非常に大きいと私は

思っていて、この地域で認知率が高いメディアって新聞広告、多分山陰中央さんの新聞広告と、あとテレビCMしかないんですが、どちらもとても費用が高くて、大きな会社であったり大きな活動であったりすれば、もちろん予算として賄えるんですが、小規模でスタートした時点の団体にちょっと手が出るような金額ではないということと、あとテレビCMも新聞広告もちょっと補完性に欠けるので、広くあまねく知っていただく、長く知っていただくということは、ちょっと難しいメディアなんですね。

費用をかけずにできて、かつたくさんの人の手に渡るという、認知度が高くて、さらに信頼性が高いということで、市報、広報紙の中に、いわゆる営利企業、営利団体というか、公のもの以外のものもぜひ折り込みというか、PRのツールとして開放していただくことを強く要望したいなあというふうに思っています。

あと、浜田市役所にもあるんですが、多分県庁にもあるんだと思うんですけど、いわゆるラック、フリーマガジン等々を置いてあるラックというのも、浜田市さんに一度頼みに行ったんですが、公的なものしかいけませんというふうに言われるんですね。先ほども申し上げたんですけど、人が集まる場所というのは、地域、こういう田舎では非常に貴重な場所なので、営利企業は除く等々制限はつけずに、審査をきちんとすれば変な企業は入ってこないんで、審査をきちんとして開放していただくようなことを考えていただければと思います。恐らくホームページのバナー等も今、開放されてますよね。なので、多分そういう方向に行っているんだろうなと思うんですが、何せ動きを早くお願いできればと思っているのが一つあります。

あともう一つは、要望というよりも、自分の活動の中でわかったことで、アドバイスと言うとちょっと偉そうなんですけど、県や、いわゆる官の方でつくられているこういう情報誌ってたくさんありますよね。たくさんあって、いいものもあるんですけど、何せ知らないんですね、手に届いていない。きょうも実は「はまボン」と呼んでいるんですけど、もう私たちの手元にはもうないので、全く。県の方に行ったらあるかなと思ったら、やっぱりたくさん残っていて、ここにはあると思ったと思って行ったんですけど、要はどんなにいいものをつくっても、手に届かないと意味がないんだということを考えてつくってもらいたいなあと思うんです。内容はついてきます、後で。事務所の棚に置いておくというのは、販路を考えたことにはならない。置いておいてもとってくれていくほど人は甘くないので、せっかくいい情報誌をつくられているのに手に届いていないばかりに、つくっただけというふうになっているものがすごく多いんじゃないかなというふうに思って

いて、最終的にどういうユーザーに届けたいのか、そのためにはどうするかというところから企画等々を立案していただくのがいいのかなあというのを私、自分の自戒も込めて、今後の活動も含めて考えていきたいなあと思っているような形です。

そんな形で、とりあえず終わりにしたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

委員長

日ごろの非常に精力的ないろんな活動をしておられるというようなことで、それを材料に、県の広報、あるいは観光振興にも関係するんでしょうか、攻め方といいますか、工夫の仕方について提言をいただいたということだろうというふうに思います。

#### 意見発表者と委員との意見交換

委員長

それでは、委員の方々と、先ほどの土田様、それから今井様との間で意見交換の時間を少しとりたいと思います。どなたからでも結構ですので、ぜひどうぞ。

委員

先ほど土田さんの方から、観光立県のお話が出まして、大森銀山の世界遺産登録、大変喜ばしいことで、石見の方もこれを弾みに、観光で売り込むことができたらと思っておりますが、最近の観光の様子を見ておりますと、大型バスで来られる方は、もうピンポイントで観光されて、他県へすっと逃げられるような感じがあるのですが、何とか滞在して、少しでも長い時間こちらの方に、島根に滞在していただいて、お金を落とさせていただけるような工夫といいますか、何か方法はございませんでしょうか。

土田氏

これも旅行会社の方からお聞きしたんですけれども、石見銀山に行くルートというのは2点ございます。ということで、広島駅を利用して行くルート、出雲空港を利用して行くルートということで、石見地域の人間として悲しいんですけれども、萩・石見空港を使って石見銀山というルートの紹介は、各観光会社、まだ現時点では1点もありません。ぜひとも県の方でそれをPRしていただいて、今、委員のおっしゃったような形で。益田にも雪舟庭園がございます。いいところがありますので、それとアクアスをつないでということで、県の方のPR、先ほども言いましたけれども、どこの部署でやっておられるかわかりませんが、なかなかそういう面で、まだ力不足の面があるんじゃないかと思いま

すので、ぜひ滞在していただくのはどうなんだと、温泉津温泉は昔の銀山のときからこういう形ですばらしい湯ですよと、浜田にも有福、美又があるんだよというような形で、旅行会社の方をどんどんどんどん引っ張ってきてPRしませんと、そういう観光客も入ってきませんので、ぜひともそういう面をやっていただければなと思います。

今井氏

それでは、多分中身からいって、私の方がちょっと得意分野かもしれないなと思ったんですけど、今、ルートというお話があったんですけど、どこから来るにしても、石見って不便ですよ。特に都市部の方は、まずキロ数を見て驚くんですよ、100キロって。出雲から100キロ。だけど、あんまり思っているほどというか、びっくりするぐらい時間かからなくて、東京で100キロっていうと半日仕事なんですけど、PRするときに、その辺もうまく伝えられればいいのになというのはいつも思います。ドライブにすごくいい、9号線をずっと走ってくるとすてきな道のりなのに、100キロ走っていると、もうこの空港は使えないというような気持ちもあったりとか、ちょっと不便かなあってなったりとかというのは、御覧になったことがあるかもしれないんですけど、ウェブ等の掲示板でもよく耳にします。思っているより近いんだよというようなこと。

あと、私がすごくいつも思うのは、やっぱり温泉の今、土田社長からもあったんですけど、よさというのは、どうしてこんなに知られていないんだろうなと。私は岡山県出身というふうに言ったんですが、知らなかったです、こんなに鳥根県に温泉があること。岡山県はあんまりないんですけど。私はいつも友人を連れてきたら必ず温泉に行くんですけど、みんなが口々に、こんなにいい温泉いっぱいあるのに何でこんなに知られてないのって。美又温泉なんか、すごいですよね、美肌効果抜群という感じなんですけど、あのあたりをもっとPRする必要があるんだろうなと思うのと、これも関係者の方がいらっしゃったらごめんなさいなんですけど、接客態度がとても悪いんです。すみません。この「はまボン」の中にもちょっと書いたんですけど、すごくぶっくらぼうなんですよ。

知事は出雲の方の方ではないですか、失礼しました。そうか、こちらの方でしたね。出雲の方がびっくりするぐらい愛想が悪い。怒ってんのっていうような感じで悪くて、もう少し人を呼ぼうと思ったら、そのあたりのこともやっていかなきゃいけないんじゃないかなあというのは日々、私は思っています。県に言うことかどうかはわかりませんが、アイデアとしてはこんな感じです。

土田氏

今、時間言われたんですが、先ほど私が説明した「天然コケッコー」、この夏休みから全国ロードショーで出るんですけども、これのホームページ見られた方は、多分おられると思いますけれども、この地域、これを見て回ろうと思ったら車が必要ですよと、JRで行ったら大変ですよと、そういうようなマイナス報道をしているということも県の皆さん方、ぜひ見ていただいて、どうしてこういうようなPRが出たのにクレームをつけないのかということで、ぜひとも参考にさせていただければと思います。

委員

それぞれお二方に1点ずつ、お考え、お答えをお訊ねしますので、よろしくお願います。

最初、土田さんの方からございました優先順位をつけてということで、一つの例として、産婦人科医について、これは上位の順位にすべきではないかということが示されましたが、ほかにどういうことがお考えの中にあるのか、お聞かせをいただきたいと思います。

それから、今井さんの方から活動感あふれるお話を拝聴いたし、私も元気が出るなという思いがしたんですが、この「はまボン」に対して県外の方から何か反応が寄せられているかどうか、お聞かせいただければと思います。

土田氏

それじゃあ、私の方から最初の質問で答えさせていただきますが、今般、溝口知事が誕生いたしまして、溝口知事は活力ある島根、安心して暮らせる島根、心豊かな島根ということで、公正で効率的な行政の推進をやっていくということで掲げておられます。そういう意味で、安心して暮らせる、特に若い女性は何かということになりますと、人生での産科というか、お産が非常に今、そういう面で若い女性の方に必要でないかということで、ぜひとも優先順位ということで上位に上げさせていただいたと。

それから、活力ある島根ということは、やはり北九州の方ではトヨタ自動車がどんどん工場が進出して、若い者がどんどん帰っても働く場所ができていると、そういうようなのをぜひこのあたりでやっていただきたいと。そのためには、工場進出ができるだけの産業幹線道路をつくっていただきたいと。たまたま今般6月に会長になられた小松の坂根さんも当浜田出身でございますが、小松製作所、世界的に有名ですが、ある機会で浜田の方でどうですかというような質問をしましたところ、大変申しわけないけれども、技術者がいない、若い者がいない、物をつくっても運ぶ道路がないんだというようなことを

言われておりました。そういう面で、同じ公共事業でお金を投資するんでしたら、それぞれ中山間地の人も必要かと思えますけれども、まず工場誘致できる基幹道路を最優先で整備していただきたいということで申し上げたということです。

今井氏

県外の方の反応というふうに、すみません、ちょっと逆にそれは評価という意味ですか。

そもそも県外の方はターゲットではないので、だれにも渡してませんと言ったらおかしいんですけど、私の友人が見たぐらいで、ターゲットはごっちゃにははいけません。これは浜田に来た人が読むものなので、その人たちの反応があればそれで十分なんですけど、ただ、ちょっと友人等々に言われたのは、こういう、いわゆる外から来た人たちをサポートするというのは、本来、官の仕事なんじゃないのというようなことは、他の人たちからは言われました。ただ、それには限界があると思うので、例えば役所がつくるとなると、そういう選別した情報というのは無理だと思うし、なので民間ができることは民間でやればいいんじゃないのというような話はしていたんですけど。答えになっていますか。すみません。

委員

私の方から、今井さんに御質問を1点したいと思います。

「浜田に引っ越してきたときに読む本」なんて、ネーミングがすばらしいなと思いながら初めて拝見させていただいたんですが、ちょっとお話の中に、余りインターネットという言葉がなかったものですから、「はまてん」のメールマガジンも発信をしてらっしゃって、活動は十分されてると思うんですが、インターネットに対する、広報メディアとしてのインターネット効果みたいなものをどういうふうに考えていらっしゃるのかなと思いをまして。

今井氏

ちょっと今日は時間が余りなかったので省略したところだったんですけども、おっしゃるとおり、こういう時代ですので情報発信というか、情報共有は本来インターネットであるべきだというのは実は持論なんですけど、地域的に情報後進地域と言っていいんだと思うんですけども、都心部ほどインターネットを使って情報をとってきたりなんなりということがちょっと、慣れている方が少ない地域で、紙媒体中心でいきましょうというのがそもそもの企画ではあるんです。ただ、やっぱりインターネットの方に移行していきたいという気持ちは、実は強くあって、というのが、やっぱり紙媒体でできることというのは

限界があって、オンタイムの情報は送れないとか、あと市役所で配るとなると、お店の情報とかはネットに出した方がいいよねというような話は常にしておりますし、あと、情報のコラボレーションができるのは、紙媒体というのはONE WAYの形なので、コラボレーションして一緒に盛り上がっていけるのはインターネットなので、できるだけそっちの方向に行きたいと思っています。

ただ、私が、ちょっと話がそれるかもしれないんですけど、日々実感として思っているのは、インターネットを日常的に使うには、ちょっとこの地域の人にはお金かかり過ぎるんじゃないかなというのを実は思っていて、すみません、あんまり言葉を選ばずに言うんですけど、多分ここにいらっしゃる、今日聞かれているような方は、恐らくおうちにパソコンがあって、光通信ではないかな、何せ高速のメディアであるんですけど、結構パソコンってお金かかりますよね。やっぱり例えば東京と比べて収入が少ないなかで、なかなかパソコンのお金払うのってしんどいだろうなというのが実は、この2年間で感じたことでもあるんです。もしかすると、携帯の方が向いてるんじゃないかなというのはよく最近、私は思います。県の方も携帯メディア向けのメールマガジン等発信もあると思うんですが、携帯電話というのは都心部に負けず普及をしていますし、金額的にも初期投資、各家庭に関していうと少なくすむので、パソコンで、パソコンでというのは、ちょっと石見地域に関して言うと、なかなか広がりにくいんじゃないかなあと実は思っているところです。

委員

(インターネットの)普及率調査か何かされているんですか？

今井氏

ちょっと数字は忘れちゃったけど、インプレスか何かが出しているインターネット白書に確か県別の情報があって、やっぱり普及率は少なかった。今後増えるかなあと考えたときに、景気も悪いし、東京ほど給料は高くないし、みんながパソコンを買って、みんながそれをやっていくにはちょっと遠いなあというような、それは実感値としてです。

委員

この財政改革の委員会は、8月の頭まで行われる予定になっています。そのうちの今、1回が今日、浜田ということで、石見地域の問題について皆さん、御関心の高さから、すごく大勢の方がお集まりになったと思っています。

今日お集まりになった皆さんは、恐らく島根県の財政状況そのもの、それも御関心かと思うんですが、むしろ出雲地域と石見地域の県内の地域間格差について、非常に御懸念お

ありかと思えます。平成20年に旭の方にPFIの方式による社会復帰センター、刑務所が開所予定です。今、浜田の方の経済界の方にお話を伺ってましても、そこからどう仕事をとるかということで、外部からの経済効果が期待されてる。また雇用効果で見ても250人雇用が生まれ、そのうち120人が民間採用です。

先般まで浜田では、警備員の採用募集セミナーが行われ、多数の市民の方がお見えになっていました。その中で30歳代の男性が質問されました。今、警備員として雇ってもらえると非常にありがたいと。なぜかというと、基本給が16万から17万ってお話だったんですね。そんな仕事、浜田にないと。魅力的なんだというわけですね。非常に驚いたというか、改めて驚いたわけです。そう考えたときに、いろいろ財政の側から聖域なき改革と言われるときに、公務の割合って非常に島根は高く、そこに雇用されている多数がずばっと切られてしまいますと、この石見地域の経済に非常に打撃を与えることになります。そう考えたときに、出雲地域のような産業集積や経済活動に乏しい石見地域では、世帯主が食べていける仕事をどう確保していくのかというのが問題になります。工場誘致というお話が先ほど土田さんの方からありましたが、一方で改革で財政カットを推進していかなければならない中で、世帯主が安心して暮らせるこの石見地域というのはどういう可能性が残されているのか、土田さんと今井さんはお考えでしょうか。

土田氏

それでは、私の方からちょっと一言お答え申し上げたいと思います。

県の東部、西部ということで、今、地域間格差が言われました。確かに県の西部におきまして、一番の優良会社はどこですかと聞かれたときに、島根県庁ですと、2位がどこですかと、市役所ですというのが大体の若者の答えになってるかと思えます。ただ、そのところが、今日こうやって引っ張り出されたのは、優良企業の県が財政破綻、夕張じゃございませぬけども、なりかけているということで、こういう形での公聴会になっていると思います。だから、いつまでも県の西部で一番いい会社が島根県庁ですよという時代はもう終わったんじゃないかと。そのところの発想を転換して、いろんな企業、元気のいい企業を一つでも多くこの地域に持ってきて、先ほど16万から17万というのは果たしてそうかなと、ちょっと疑問に思うんですけども、働く場、働く機会ができるというのは、やはり元気のある企業がその下請、孫請でもいいですけども、1カ所でも2カ所でも出てくれることが、お互いがよくなるんじゃないかと、世帯主の収入がふえていくんじゃないかということで、道路を整備して、出たくなる、あそこに行ってみたい、自然がきれ

いだからというような場所にしていだきたいということで、道路整備を最優先だということでお話ししたつもりでございます。

今井氏

難しい課題なので、どういうふうに私が言えるかちょっと難しいですが、非常に個人的な話ですが、私もやっぱり東京から戻ってきて、半減とは言いません、もっとはるかに給料は下がっています、家庭の収入は。正直しんどい面もあるんですけども、それでも帰ってきてよかったなと実は思っている。その大きな面が実は子育てで、私は東京にいたときは、私の実家も岡山ですし、もう本当に核家族もいいところの子育てだったんですね。夫も六本木ヒルズで働いておりましたので、もう深夜というか、終電で帰ればラッキーみたいな形で、もうシングルマザー状態で、最初半年、子育てをしていました。今、私の東京の友人もほとんどそうです。それに比べて、確かに給料は安いんだけど、7時ぐらいには帰ってきて、土日は休めて、じいちゃんばあちゃんもそばにいて、地域もまだとても私の住んでいる地域とかは仲がよくて、近所のおばちゃんちに遊びに行ったりしてて、何て素晴らしい恵まれた環境なんだろうと日々、本当に強く思っています。

お金をたくさん持って消費生活をエンジョイしたいのなら、やっぱり多分東京がいいかなって正直思っているんですけども、そうでない魅力というのを伝えていきたいなあというのが今、私の大きな、何というんでしょう、コアとなる部分で実はあります。経済的に楽しいというか、ゆとりがある、消費の面で楽しいというのには多分限界があって、私ももう10年でおなかいっぱいになったので帰ってきましたみたいなところもあるので、それ以外の、さっき自然が多いというような話もしたんですけども、心の豊かさと言うと非常に陳腐なんですけど、そういうところを発信していければなあというふうに私は思っています。

#### 会場参加者との意見交換等

委員長

会場の方から、まず県の財政状況等について御質問でもございましたら、お願いしたいと思いますが、どなたか何かございますでしょうか。

会場発言

失礼します。NPO法人で子供の声を聞く電話等の活動をしています。

私たちの活動で、島根県さんに対しては、まずお礼を言わなくちゃいけないなと思って

います。子供たちがどれくらいかけてくるかなと思っていましたが、本当にこれ、数がものすごく多いです。いかに子供たちが普段話を聞いてもらってないかというのをよくわかりました。それに対して、やっぱり最初は有料の電話だったんですが、島根県青少年家庭課さんの方から御配慮いただきまして、この電話、フリーダイヤルに変えるというところで、このフリーダイヤル料金というものを助成していただいているおかげでできているという部分はかなりありますので、本当に感謝しています。これは今日、こういう席に子供は来れませんので、やっぱり子供たちがどれだけそういうものを必要としているかというのを、私は子供にかわって言わなくちゃいけないなと思って参りました。

それと、先ほど学校の統合、あるいは聖域なき改革というところで、学校の教員等ということ、ちょっと発言があったんですけど、もちろんそれはやみくもという意味ではないだろうなと思います。と思いますが、実は、私は非常勤講師として小学校に行っているわけですが、やっぱり現場を見ていまして、子供が少ないから教師を減らしてもいいと、そういう数の計算にはならないというのを実感しています。子供の質が明らかに違っています。やはり子供たちを育ててきた親、さらにその親を育ててきたその親、その価値観というのが経済優先でずっと来たなというのをひしひしと子供たちを見ていて感じています。ですので、今日の場合は、本当は県の財政をいかに立て直すかという意見をしなければいけないというのは重々わかっているんですが、決してこの部分、子供たちにかかわる部分を安易に削減してほしくない、そういった思いで参りました。

それから、すみません、西部のことには限らないんですが、私たちのような活動をしていまして、島根県下の全域にわたって活動している者として、NPO法人あるいはNPO活動をしている者にとって、松江のいきいきプラザにありますNPO支援センターというのが非常に私たちにとっては心強い存在です。あそこにいるスタッフの皆さんというのが本当に、食事をする間も惜しんで仕事をしておられるというのを時々、松江に行ったときに見るんですけども、やっぱりそういった方たちのおかげで私たち、なかなか得られない情報も得ることができますし、そういった大事なところを、もう何年か前から、もしかしたらここは危ないかもしれないんだという声を実は聞いていました。私たちにとってはとても大事なところなので、絶対になくしてほしくないし、そこの人たちというのはすごく私たちにとっては重要な人たちなので、失いたくないという思いでお願いに参りました。すみません、お願いばかりで。

知事

財政の再建のための会議ですけども、再建する際に、こういうところに注意しなきゃいかんというのを聞く場でもありますから、こういう点は大事だということも大事な意見ですから、こういうところを減らせということもあるし、両方自由に御発言されたらよろしいんじゃないかと思うんですね。ちょっとそここのところを申し上げておきます。

委員長

我々、この会議のメンバーでいろんな提言をしていこうという中で、ここはやっぱり県民の皆さんのニーズが強いよということ、やはりなかなか切り込んでいけないだろうというようなところは当然あると思いますね。そういうことで今、知事さんが言われたとおり、いろんな形の御意見をいただいて、どう財政を立て直すかという話に終始する必要はないというふうに考えてございますが、どうもありがとうございました。

土田氏

先ほどの学校の再編で、ちょっと舌足らずな面があったかと思えますけれども、小・中学校を廃統合しなさいという形で私、説明申し上げたつもりはございません。小・中学校はあくまで国の義務教育の段階でございます。高校、大学は学生の自分の意思で行くところでございます。そういう意味で、高校の再編成という形で、県の方でもうちょっと聖域なき改革で見直す場があるんじゃないかなと。たまたま先般の国会で教員免許の更新の法律ができました。10年たって資格喪失する先生もこれからたくさん出てこようかと思えます。そういう意味での改革の時期であるので、ぜひとも高校の再編を見直していただきたいということで提言申し上げたつもりでございます。子供さん、小・中学校のことについては一切、私は先ほど触れてないということでございますので、よろしく願いいたします。

委員長

ほかに何か、先ほどのように、これは非常に大事だよというような話でも結構でございます。こういうところは見直したらいいんじゃないかということも結構でございますが、もし何かございましたら。

会場発言

NPO法人で西部情報化センターを管理しております。

先般、いろいろ予算の関係でいろんな話も聞いて、厳しい状況はよくわかっております。ここで管理している設備が高度情報化センターということで、イメージ的にいいですと最

新鋭の機器がそろっているというイメージがとてもあるんですけども、現状として今、そういう予算の状況じゃないので更新が進んでいないという状況もあります。先般、いろんな故障したものもあります。故障したものをどうにかしてお願いできませんかというふうに担当者の方といろいろ協議をしているところなんですけれども、なかなか先に進まない。なかなか物品として処分できないものもあるのでということでお話を聞いています。そういうものに対して、私たちがとりあえず備品のシールでもはがしていただいて処分ができるような形にできないかというふうな話も一応してみるんですけども、なかなか進まない状況で今おります。

ここで事業としてやっている研修事業も見直しの段階ですという話も伺っております。当然だと思います。今まで無料でやっております、県の事業なので無料ですと。いや、それはそれでいいと思うんですけども、今まで私たち何年かやってきまして、無料の研修も限界が来てるんじゃないかと。だから自分たちの研修、要するにスキルを上げるための研修であれば有料化というのも当然、県の施設を使ってやるのであれば施設料金の一部負担があってもいいんじゃないかというふうなことを感じています。すべてが県の事業なので無料でやりますよというのは、私たちもちょっと何か違和感があったりすることもあります。現実、有料化にすると受講者が来ないということも考えられますけれども、それは皆さんの判断でやってもらえればいいことなので、お金を払ってでも習いたいという人はたくさんいる、それは民間に任せればいいということもあると思いますけれども、県が最低限必要なものに関して、もうちょっと議論していただいて有料化でもいいから事業の継続、これは少なくともさっきもちょっとインターネットの話も出ましたけれども、インターネットの情報検索の仕方というのを研修で企画しても人が集まらないという場合もあります。現実、島根県が整備した高速の回線が、今日もちょっと総務省の冊子を見ましたけれども、97%とか8%、もう島根県の全県WANは普及してるんだというふうな数字がありますけれども、実際の話、それは皆さんが使っている数字じゃなくて、一応使うことができるよということなので、使える人がいるわけではない。そこに幾らか予算をつけることができるのであれば、皆さんの各地域でそういうふうな情報の収集の仕方の研修などを開催できるような、何か私どもも努力しますし、NPO法人としても外に出ていくという研修を今年度は企画してやろうとしているので、その辺のことも何か、有料化の方で継続できるのであれば、そっちの方向でできればなあと思っています。

機器としても、購入が無理であればリース。リースの方が予算がかかって仕方がないと

いうのであれば、ちょっとこれは担当者の方とまた話が変わってくると思うんですけども、やっぱり日々こういうインターネット関係とか情報機器の端末というのは4年ごとのサイクルということで、とてもサイクルが早過ぎて、購入してしまうとリスクが伴うと思うんですね。そういうことで、もしこういう情報化センターというふうな施設が今後継続されていくのであれば、そういうふうな考え方も一つの案ではないかなあと思われまして。ということで、大変生意気なことを言いましたが、失礼します。

委員長

ありがとうございました。

もうお一方ぐらい、もしございましたら。よろしいでしょうか。

なければ……。

委員

すみません、では、ちょっと御質問させていただきたいんですが、先ほど土田様の方から優先順位で道路ってありましたですね。工場誘致のためと、これは雇用創出になりますが、まずその中で、多分道路は必要なんだろうけども、道路だけなのかと。道路を整備できたけども、例えば本当にそれで企業誘致がうまくいくのかという中で、例えば県の財政を見ても、恐らく企業誘致等で予算も随分使われていると思うんですね。道路が予算的に企業立地の方、商工労働部の方になるのか、ちょっと私もわからないんですが、そのあたりが県の予算でまた、これは県の方に聞かなきゃいけませんけども、有効に予算措置が、道路は道路になっているのか、企業誘致のために両方1セットになっているのか、ちょっとわからないので、それも教えていただきたいんですが、まずそういった面をお聞きしたいことと、もう一つ、今井様の方に、とてもいい「はまボン」というのを拝見させていただいて、本当、私も先ほどありました、元気をいただくような感じなんですが、公益信託しまね女性ファンド助成事業ということで、恐らく県費といたしますか、助成を受けてらっしゃる。恐らくこれも何年も続くとは思えないんですが、これが例えばなくなった場合とか、この事業はまたどういうお考えでお進めになるのかというのを教えていただけますでしょうか。

土田氏

じゃあ、私の方から、道路を整備すれば、それですべてがうまくいくというような言い方で聞こえたら、ちょっと大変申しわけございませんが、先ほど申し上げましたコンテナ1本も運べないような現在の幹線道路ですと、すべての面でいろいろ物事を進めていく上

においては、何でもできないんじゃないかなと。道路整備イコール工場誘致できるかという言い方にしたわけじゃございませんで、まずコンテナを、これは日本全国どこでもそうなんですけれども、物を横持ちで持っていくということになりますと、まずコンテナが運べない道路が島根県の幹線道路だということになってくれば、すべての面において物事が進まないんじゃないかなということで、そういう全面的というんじゃなくて、トンネル何カ所かの部分について、最優先で事業をやっていただきたいと、そのために同じ公共事業で、いろんな方、差しさわりがありますんで申し上げにくいんですけども、建設業界の方はある程度工事があればいいと思いますけれども、それが林道であり農道であり、何でも同じだと思いますが、そういう地元の業者さんも潤うということで、ある工事でしたら何を最優先するかということになりますと、県内でコンテナを運べる道路をつくることが必要じゃないかというような言い方で、したつもりでございます。だからそれが、道路ができれば工場誘致ができるというようなことはありませんで、まずということでございます。

今井氏

「はまボン」は、しまね女性ファンド、大田にありますあすてらすの中にありますところの助成を受けて、3分の2の助成の額を受けてつくった本です。

私もずっと助成金を受けながらずっとやっていこうという気は全然なくて、幾つか視点があるんですけど、一つは先ほど申し上げたように、できるだけインターネットの方に移行していきたいという思いが一つあります。その方が価格的にも時間的にもフレキシブルにできますし、本来のあるべき形だと思うのが一つと、もともとは先ほど私の中での情報誌をつくるという経緯をお話ししたんですけども、もう一つはやっぱり浜田に来た人たちの支援、あるいは新しく来た人たちに浜田の暮らしに役立ててもらおうというような形でそもそもつくった情報誌でもありますので、できれば市だったり、県はちょっと大き過ぎるんですけど、市の方でうまく、この必然性に気がついていただけてつくっていただけるような形に持っていけるという方法もあるのかなあというように考えているのが一つです。ただ、それには先ほど申し上げたような内容的な限界があるかなあというのは考えているのがもう1点。

あと、余りずっと続けていくことを前提としてつくとなかなか動けないので、先ほど元気な話をしたんですけど、先どうなるかわからないからやらずにおこうという様子見よりは、とりあえずやってみようというような形で進めたものなので、余り深く考えていま

せんでしたというのが実は正直なところですよ。

あと、ごめんなさい、先ほど西部情報化センターの方の、ちょっと私思ったことがあるので言ってもいいですか。

委員長

どうぞ。

今井氏

非常におっしゃるとおりだと思っていて、私、人は無料のサービスには大した期待をしないというか、要は期待と満足、つまり、効果というのは比例するものだと思、そもそも思っているんで、非常にうんうんと思って聞いていたんですが、そうすると、民間と競合するだろうなと実は思っています。今、どのくらいの受講者がいらっしゃるのか、ごめんなさい、把握していないんですが、無料だから来ている人も多分いる。もちろん受講者が減るというようなお話もあったんですけど、民間と競合するだろうなと思いつつ、ただ、競合は非常に市民にとってはいいことなので、どんどん競合して、どんどん質を上げていってくださいというような思いで聞いておりました。以上です。

委員長

ありがとうございました。

委員

中山間地の多い島根県で、お二人に質問なんですけれども、その中で過疎化に歯どめをかけるとか、地域活性化のための都市と農村の交流、島根県がやっております田舎ツーリズムについて、お二人はどのようにお考えでしょうか。

土田氏

大変難しい御質問でございますけれども、今日は財政の健全化ということで、まず先ほどのつくるというのは二の次という言い方は悪いんですけども、何を削減していったらいいのかというような形での公聴会ということで聞きましたもので、私、いろんな形で耳の痛い部分のことも申し上げたと思いますけれども、こちらもいい、こちらもいい、こちらもいいと、全部やろうとしたら従来の島根県の行政と変わらないんじゃないかと。これから思い切ってメスを入れていくんだとしたら、ある程度のというか、血を流す部分も出てくるおそれもあるんじゃないかなと。

それで、先ほどの質問じゃないですが、中山間地とのいろんな兼ね合いということで、中山間地も大事にしなければいけない、ここも大事にしなければいけない、みんな取り上

げていったら、さっきの5,000億じゃないですけども、7,000億、8,000億ぐらい予算が必要じゃないかと思います。当面は、ある程度そういうところに対しては、申し訳ないけれども、島根県として手は差し伸べないよというような今、財政状況じゃないかなということで私は感じております。大変申し上げにくいことですけども、すべてを満足させようと思うと、今以上に県の財政は悪くなると思いますので、どこかが犠牲にならざるを得ない。最大公約数の世界じゃないかと思います。私の考えはそうです。冷たいようでございますが、そうでございます。

今井氏

東京にいたときに、グリーンツーリズムとって、正式名は正しいでしょうか。聞いたことがなかったんですよ。それがすべてかなと思っていて、今、土田社長が非常にはっきりおっしゃったので、私もはっきり言うと、地方の人の自己満足という感じがしています。もう少し認知されるにはどうしたらいいのかなあというふうに今、何かアイデアを一つもお出しすればと思って考えていたんですが、ちょっと時間が余りなかったこともあって、よろしければ、後でメールアドレスか何か教えていただいて、少し一晩考えさせてくださいという気持ちです。すみません。

## 閉 会

委員長

ありがとうございました。まだまだ御意見等あるかと思うんですが、ひとまずここで、この意見交換、終わらせていただきたいと思います。土田様、それから今井様、大変お忙しいところありがとうございました。

それでは、今日の公聴会、これで終わりにしたいと思います。県のホームページの方に改革推進会議のところがございます。そこでいろんな意見をお伺いするという仕組みになってございますので、後ほどまた事務局の方から説明があるかと思いますが、ぜひともいろんな御意見をお寄せいただきたいと思いますというふうに思います。

それでは、これで終わりたいと思いますが、実は本日、県議会議員の先生方、3名御出席をしていただいております。須山議員様、それから池田議員様、それから途中で御退席になられましたが大屋議員様、3名お越しいただいて、やはり皆様方の意見をお伺いしようということで出席をしていただきました。お忙しいところ、本当にありがとうございました。

それでは、これもちまして本日の会議を終わらせていただきますが、最後に知事さんの方から感想を、もし何かございましたら、よろしく申し上げます。

知事

いろんな意見をいただきまして、やはり一つは官といいますか、パブリックセクターがどういう役割を演じていくか、どういうやり方をしていくか、そういう点、いろいろ参考になる意見をいただきました。

それから、今井さんの方は民間、純粹の民間というよりも、公共的な仕事との間にあるような分野で社会貢献的に活動されておられるわけでありまして、それも官でできないような仕方でも貢献をされておられるということでありまして、私どもは官の役割を見直すと同時に、民間と官の間にある、公共セクターの間にある分野で社会貢献的な活動が各地で自発的、あるいは若干支援もあって活発化するということが大事なんじゃないかと思っております。そういう点は、私どもも少し強化をしようということによっておられるわけでございます。

それから、産業振興あるいは産業の中でも観光についてのPRの仕方等々についていろんな意見をいただきました。それから産業振興については道路の問題、土田さんから御意見をいただいております。私どももこういう分野は重視をしていかなければならないということでもございますし、それから公共施設の管理の仕方、あるいは人員の配置の仕方等々、いろんな意見をいただいたと思います。

それから、お二人に共通して興味がありましたのは、やはり子育てあるいは子供を出産する、そういうことについてのお話で、そういうことが大事だということがございましたし、今井さんは都会にもおられて、田舎のよさを実感しておられるわけですが、私もそうでありまして、都市は、特に大都市というのはなかなか厳しいところでありまして、独身で楽しむのにはいい所ですけども、子育てとなると大変難しいところでありまして、したがって、大都市では出生率が非常に下がっているわけでございますけども、島根のようなところは子育てがしやすい場所でありまして、そういうところは若い人をこの地に呼び戻す一つの魅力であるわけでありまして、そういうことも県の行政を考えるときに頭の中に入れていく必要があると思っております。

いずれにしても、財政の再建をやりつつ、やはり産業を振興するようにいろんな工夫をしなければいかんということに改めて皆さんの意見として受けとめた次第でございます。以上でございます。

委員長

ありがとうございました。

それでは、事務局の方、何かございますか。

事務局

それでは、事務局から2点、連絡も含めて話をいたします。

1点目は、先ほど委員さんの方からございましたけども、企業誘致の関係と道路の関係、県の方ではやっているところは別々なところですけども、当然道路を預かる部署は産業振興のこと、あるいは日常生活のことを考えながら道路の優先順位等を考えながらやっていると、こういう形になります。簡単ですが、こういったところです。

それからもう一つ、事務的な連絡でございますが、お集まりの皆様のお手元の方に県財政の健全化に関するアンケート用紙があるかと思えます。出口の方に回収箱を設けておりますので、ぜひ今日おっしゃっていただけなかった御意見も含めまして、何なりと御記入いただき、御提出いただきたいと思います。また、これ以外にもさまざまな形で御意見を受け付けておりますので、何なりとおっしゃっていただければと思います。以上でございます。

委員長

ありがとうございました。

それでは、本日の予定、これですべて終了ということにさせていただきたいと思えます。

皆様方、夜の時間までこうして御熱心にこの会に参加していただきまして本当にありがとうございました。

それでは、これで終了いたします。ありがとうございました。(拍手)